

本論文は

# 世界経済評論 2020年5/6月号

(2020年5月発行)

掲載の記事です



## 世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読  
期間中

### デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン書店

# 一呼吸置いて世界を眺める



元中華人民共和国駐劬特命全權大使、日中関係学会会長

宮本 雄二

世の中の変化のスピードは本当に速くなった。こういう時ほど一呼吸置いて結論を急がず、じっくり考えた方が良い。

米中の全面的対立は本物であり、長く続く。これは間違いないだろう。2017年の『国家安全保障戦略』において中国を戦略的、経済的競争相手だと認定した。ハイテク分野を中心に、米国はシステムとして中国排除に向かっている。しかし米中が米ソ冷戦時代のように完全にきり離される（デカップリング）という見立てについてはどうだろうか。

本年1月の貿易協議「第1段階」の合意文書の通りになれば、米中の経済関係はむしろ深まる。そもそも米中の経済を切り離すことなど可能なのだろうか。トランプ大統領再選の可能性は高く、選挙の制約のない第二期の政策はまったく見えてこない。現時点での米国の対中政策は「総論賛成、各論反対」の段階にあるという。ここは一息置いて、米中のこれからを考えた方が良さそうだ。

2017年秋、第19回党大会における報告において習近平主席は2050年に世界のトップに立ち、中国が世界を主導する「中国の夢」を高らかに歌いあげた。2014年に打ち出された一帯一路構想が、その野心を実現するグランドデザインであり、「製造業2025」（15年）も「中国

標準2035」（18年）も、それを支える重要な柱だという人もいる。確かに世界のトップに立ちたいという中国の願望は根強く、これからもその実現をあきらめることはないだろう。

しかしこの5年で、雰囲気はまたもや大きく変わった。中国経済の成長は鈍化し、抱える問題もよりはっきりしてきた。一帯一路構想を中国が一国だけで支えることが不可能なことも次第に見えてきた。実力による現状変更を伴う対外強硬路線は、日米を初めとする近隣諸国の反発を招き、米中は全面的な対立関係に入った。「中国の夢」実現の道が、決して平坦なものではないことを思い知らされている。

中国の将来についても一息ついて熟考した方が良い。「中国の時代」は簡単には来ないし、もしかすると現実となることなく傍らを通り過ぎてしまうかも知れない。私は対外関係において中国は二つの方向性の転換が必要だと指摘してきた。一つは経済であり、自由で公平な国内市場に向けた方向性の転換である。二つ目は軍事安全保障面での方向性の転換である。急速な軍事力の増大を世界に納得させるか、それができなければ方向性を転換するしかない。中国共産党の真骨頂は、その変わる力にある。その真価が試されている。

(みやもと ゆうじ)